

2022年2月21日

令和4年度(2022年実施)試験「英語(リスニング)」について

1. 総評

昨年度初めて実施された大学入学共通テスト(以下、「共通テスト」という。)の英語(リスニング)では、その前身である大学入試センター試験(以下、「センター試験」という。)との違いとして、音声の再生回数が「全て2回ずつ」から「2回(第1問・第2問)と1回(第3問以降)」に分かれて出題された点や、音声にイギリス英語や非ネイティブの話者が含まれている点などがあつた。

2回目の実施となる今年度は、大問数は6問、設問数は37問と昨年度と同じであり、各設問の形式も昨年度と概ね変わらなかった。また、上記のような音声の再生回数の混在や話者の音声上の多様性についても、昨年度と同様だった。一部ではグラフ中の空欄を埋める設問からイラストを並べ替える設問への変更はあつたものの、全体的に昨年度と大きく異なる箇所は特になかったと思われる。また、平均点は、59.45点で昨年度よりも約3点高く、全体の難易度としては昨年度と同程度またはやや易しかったと考える。

2. 特徴的な設問

・第4問 **A** 問 18～21

話を聞き、各選択肢のイラストを時系列順に並べ替えて答える設問である。昨年度の問18～21はグラフ中の空欄を埋める設問であり、今年度は、平成30年度の試行調査でも出題されていた、イラストを並べ替える設問に出題形式が変わっている。本問のようなイラストを並べ替えて順番を問う設問は、以前のセンター試験だけでなく、英検やTOEICなどの英語民間試験でもあまりみられない傾向の出題ではないかと考える。

・第4問 **A** 問 22～25

表に記載されている衣服などをどの箱に仕分けするか、話を聞いて答える設問である。音声では表中の記載を言い換えた表現が使用されていることから、正解を選ぶことが難しく感じた受験生もいたのではないかと考える(例:表では **down jacket** や **ski wear** とあるが、音声では **all winter clothes** となっていたなど)。

また、設問文には「選択肢は2回以上使ってもかまいません。」とあり、実際に正解として選択肢2が問22と問24で2回使われている。

・第5問

長めの講義を聞いて、ワークシートの空欄を埋める設問や、講義の内容に合うものを答える設問などが出題されている。音声の再生回数は1回である。昨年度も同様の出題形式であったが、事前にワークシートや問い、図表を読む時間が十分に設けられていたとはいえず、リスニングとしての能力の他に、限られた時間の中で素早く多くの情報を読み取り、整理する力が求められたと考える。

3. 考察

2回目の実施となる今年度は、昨年度と大きく変化したところはなかった。両年度において、アメリカ英語話者のみであったセンター試験と異なり、イギリス英語や非ネイティブの話者による音声を採用されているなどといった「英語の多様性」が意識された傾向がみられた点や、実用的な状況が想定された設問がある点など、英語を用いた「コミュニケーションに際しての聞く力」の学習成果を測ろうとする出題意図がみられた。

このように評価できる点がいくつかある一方で、まだ改善の余地があるように思われる点もある。

まず、音声の再生回数に関して、第1問と第2問が2回、第3問以降が1回と回数が異なる点である。聞きとる文が短く易しい第1問と第2問は音声は2回流れて間延びする印象がある一方で、聞きとる文が長い第3問以降は音声は1回しか流れないため、第1問・第2問と比べて急いで設問を解かなくてはならない。このように、音声は2回流れる大問と1回流れる大問で、テストが進行するスピードに緩急の差が大きくあり、設問の難しさや音声の再生回数とバランスがとれていないと考える。

また、リスニングの各設問の配点のバランスについても、一考の余地があるだろう。例えば、第1問Aの問1～問4が「各4点」に対し、第4問Aの問18～21は「完答で4点」、問22～25は「各1点」の配点である。設問ごとに読まれる文の長さや難しさ、再生回数などを考慮して重みづけをした方がいいのではないかと考える。加えて、リスニングは試験時間が60分（そのうち解答時間は30分）に対し、配点と同じく100点のリーディングは試験時間が80分であり、リスニングとリーディングの間の試験時間と配点のバランスについても偏りがある印象である。

以上を踏まえ、例えば、音声の再生回数を全て1回に統一して、音声の再生時間が短くなった分、設問数を増やしたり、資料・図表を読むための時間を増やしたりするなどして、英語のリスニングの試験として、全体的にもう少しバランスがとれた構成にしてはどうかと考える。

また、その他に気になる点として、リスニング能力だけでなく「速読力」や「情報処理能力」が求められた設問があった点が挙げられる。音声中で長い話が流れる第5問では、ワークシートや図表を読む時間が短い上に、音声の再生回数が1回であり、短い時間で必要な情報を素早く読みとる必要があった。リスニング能力を測る設問としてはたして妥当である

のか、今後も検討が必要であると考える。

英語民間試験の導入を前提として始まった共通テストの英語だが、結局導入は断念された。このような状況の変化を受けて、リーディング・リスニングどちらも「高校教育の成果として身に付けた大学教育の基礎力となる知識・技能や思考力、判断力、表現力を問う設問」（「大学入学共通テスト問題作成方針」から引用）としてこのままで適切なのか、テストの構成や出題内容についての議論・検討がより一層なされることを期待する。

参考資料

- ・「令和4年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針」
大学入試センターホームページより